

講演会

扉を開き、

架け橋を築く

異文化理解における美術館の力

日時

10月15日 水

16:20～17:50

※開場 15:30

会場

大妻女子大学 E棟
地下1階E055講義室

講師

ナンシー・ベルリナー氏
ボストン美術館 中国美術部長

過去250年にわたり、ボストン地域におけるアジアの美的影響は継続的かつ深遠なものでした。この地域の美術館は、その影響を表現し、広げ、そして深めるうえで重要な役割を果たしてきました。

本講演では、ナンシー・ベルリナー氏が、ボストン美術館とピーボディ・エセックス博物館という2つの主要な文化機関で、アメリカとアジアの間の異文化理解をどのように追求してきたのかを、さまざまな展覧会、展示、プロジェクトを通じて探ります。

入場無料
予約不要

直接会場へ
お越しください



講演会

扉を開き、架け橋を築く —異文化理解における美術館の力—

開催日：2025年10月15日（水）

開催時間：16:20～17:50（開場 15:30）

会場：大妻女子大学 E棟地下1階 E055 講義室
（東京都千代田区三番町12番地）

対象：どなたでも

主催：令和7年度共同研究プロジェクト
（代表：松村茂樹、課題番号：K2512
『博物館による異文化コミュニケーション』）

定員：300名

費用：無料

申し込み：不要 ※当日直接会場へお越し下さい

言語：英語（同時通訳あり）

同時通訳：渡邊顕彦氏（大妻女子大学教授）

問合せ先：大妻女子大学 松村茂樹研究室
shigeki.matsumura@otsuma.ac.jp

プログラム

16:20～16:25

御挨拶・講師紹介 松村茂樹氏（大妻女子大学教授）

16:25～17:35

講演 ナンシー・ベルリナー氏
（ボストン美術館 中国美術部長）

17:35～17:50

質疑応答

※この講演会は大妻女子大学人間生活文化研究所の研究
助成（K2512『博物館による異文化コミュニケーション』）を受けて開催いたします。

※駐車場はありませんので、できるだけ電車・バスなど
公共交通機関をご利用ください。

※講演会の模様を録画し、後日 YouTube で動画配信を
行います。あらかじめご了承下さい。

講師紹介 ナンシー・ベルリナー博士（Dr. Nancy Berliner）

ナンシー・ベルリナー博士は、ボストン美術館の「呉同（ウー・トン）中国美術上級キュレーター（中国美術部長）」（Wu Tung Senior Curator of Chinese Art at the Museum of Fine Arts, Boston）であり、中国美術史と視覚文化の分野における第一人者の一人です。彼女の近刊は、中国パッチワーク織物に関する研究で、数十年にわたり取り組んできた、中国芸術の深遠さ、複雑さ、そして美しさに対する世界的な理解と評価を拡大する取り組みを継続するものです。

ハーバード大学で博士号を取得した美術史家であるベルリナー博士は、東アジア言語文学および実用美術の学位も有しており、北京の中央美術学院でも中国美術史を学びました。中国語に堪能で、中国文化の実体験にも深く根ざしている彼女は、学術的研究とキュレーションの実務とを結びつけ、美的感受性と生きた伝統への深い敬意を融合させています。

彼女のキュレーターとしてのキャリアは、ピーボディ・エセックス博物館に始まり、2012年以降はボストン美術館で続いています。その間一貫して、中国美術の定義を拡張し続けてきました。皇帝美術や文人文化に加え、住宅建築、農村の家具、古典様式に属さない絵画、織物芸術といった民間の美術様式の意義を明らかにしてきました。

「Yin Yu Tang（蔭餘堂）：中国の家」や「皇帝のプライベートパラダイス」といった展示プロジェクトや、『Yin Yu Tang』（ニューヨーク・タイムズの注目書籍）、『Beyond the Screen』、『Chinese Folk Art: The Small Skills of Carving Insects』などの出版を通じて、豊かで多層的、かつ包摂的な中国の視覚文化のビジョンを世界に示してきました。

MFA（ボストン美術館）における彼女のキュレーターとしての指導力は、翁家コレクションといった重要な収集品の獲得をもたらし、中国各地での保存修復のパートナーシップや調査旅行を通して、同館の解釈的な取り組みを拡大してきました。彼女の研究は、エリートと日常の表現形式との間にある硬直したヒエラルキーに挑戦し、階級、地域、ジェンダーを超えて創意工夫を尊重する美的な視点を擁護してきました。

中国のパッチワークに関する研究においても、民間建築や八破（コラージュ）画の研究と同様に、断片、労働、物語性がどのように融合して芸術になるのかを明らかにしています。彼女の揺るぎない信念は、「見過ごされてきたものを可視化し、中国美術史を動的で多元的、かつ生きた伝統として再構築すること」にあります。

